

ロータリーを  
実践し



みんなに  
豊かな人生を

2013~2014年度 国際ロータリーのテーマ  
ロン D.バートン

RI第2510地区 **留萌ロータリークラブ**

# 会報

2013 ▶ 2014  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ 会長目標 **集中と調和**

会長/中出敏彦 幹事/大嶋孝広

## プログラム

- 本日  
「タイ検証ツアー報告」  
西谷 英樹 会員
- 次週予定  
「3・11から1097日の今日思うこと」  
田中 公一 会員

No. 2595  
第32回 2月26日  
No. 2596  
第33回 3月5日

出席報告

前  
例  
会

会員総数	41名
出免会員	8名
出免出席	8名
基準会員出席	33名
出席率	100%

前  
々  
会

第30回	2月12日
欠席会員	11名
内メイクアップ	5名
修正出席率	86.48%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

## 幹事報告

- 妹背牛RCより会報No.24~27号を受領。
- 赤平RCより会報No.2575~2578号及び3月例会案内を受領。
- 次週2月26日の例会は創立記念夜間例会です。親睦活動委員会より委員会報告がありましたが、次週は夜間例会ですので、お忘れなく。場所はホテル神居岩で午後6時30分点鐘です。

前 回	586,600円
今 回	3,000円
累 計	589,600円

## ニコニコBOX

- 先週の例会はインフルエンザにて欠席致しました。皆様にはご迷惑をお掛け致しました。  
中出会長
- 本日、卓話をさせていただきます。渡部会員

## プログラム

「我が生き立ち パート2」

渡部 英次 会員

私は読書が好きです。好きな著者は司馬遼太郎、半藤一利、吉村昭、山崎豊子、最近話題の百田尚樹など。江戸時代から現在に至る、主として歴史作家です。歴史は過ぎなければ分からない事が殆んどです。未来は総て夢。だから若い時は大きな夢を持って…。

1. 私の父母、兄弟の話。

私の父は、新潟の片田舎の旅館に明治32年12月20日に生まれ、10人兄弟の10番目という事で、

十歳と命名されました。大正時代に神田の電機学校(現在の電機大学)に進学し、卒業後大正末期に母と結婚してすぐ、大正12年の関東大震災に遭遇しております。

私の母は明治33年1月5日、長野県北佐久郡の羽毛山村にて、8人兄弟の2番目として生まれました。当時は名前を付けるのが大変で、最後の方は六人、七人、八子と名前が付けられています。家庭は農業と養蚕業でした。お墓は山の中の一面にあり、小広間に少し墓石と単なる石でした。最近、墓標をまとめて建てたと聞きましたが、当時は石の上に乗っていると、叔父から「お墓だから降りなさい」と言われたのを覚えています。

母は田舎の尋常小学校を出て、縁あって父と結婚し、東京で生活を始めました。そこで昭和4年に兄が生まれました。兄は大学卒業後通信省に勤め、国際電信電話が分離した時、給料が高いとの事でKDDの方に勤め、定年後千葉に家を建て、年金生活をしました。昨年12月30日に急に吐血し、近くの病院の医師が嫌いで東京の慈恵医大に運ばれ、85歳でこの世を去りました。日本酒が好きで、学生時代から短期の入院以外は1日3合を飲み続けました。割と真面目な一生でした。非常に残念です。

私の下に昭和13年生まれの子供がおります。子供3人全部が男で落胆したようですが、仕方なく寅年生まれのため、虎雄と命名されました。大学卒業後、NECの関連会社に勤務し、定年後に諏訪湖のあたりに家を建て、年金生活中です。山の中なので、最近、猿や猪に家の周りを荒らされ、都会のマンションに移ると言っておりました。

小学校3年までの旭川での生活は借家住まいで、父・兄・私・弟は4人で風呂に行き、縦に並んで背中を擦りあった記憶が残っております。

### 2. 私の話など。

私は、父が東京から茨城県の平磯(水戸の近く)の電気試験所に移動後、当地で昭和7年10月19日に生まれました。

父が昭和9年NHK旭川の勤務となり、私は2歳で旭川に移動しました。もちろん記憶はご

ざいませぬ。就学前、昭和12年支那事変が始まり、家の前を旭川師団の兵隊さんが沢山通ったことを覚えています。また、時々託児所に預けられた記憶があります。

昭和13年、旭川啓明尋常小学校に入学。その年に弟が生まれました。当時、まだ人力車や木炭自動車が走っていました。当時、軍国主義時代で、小学校1・2年生の頃、少年航空団に入団する勧めがありました。飛行機に乗ることが夢で入団の書類を書きました。しかし、父母は黙って目的を整備に書き直していました。このままいけば神風特攻隊に入り、戦死すると思ったのでしょうか。現在は「神風アタックはアルカイダのテロと同じだ。」と考えられているようですが。

教育とは恐ろしいもので、国のため、天皇陛下のために死ぬ、という教育で、盛んだった遊びは戦勝ごっこ。皆、竹棒一本を刀の代わりに持ち、切られると天皇万歳をして倒れました。当時、天皇は「あきつみかみ」と教育され、私たち小学生は信じていました。神様でした。母は、「神様も年を取って死ぬし、ご飯も食べるから可笑しい」と話していました。その他の遊びは殆んど田圃の側溝で泥まみれで、泥鰌取り、木に登っての蟬取り等、自然が相手で今の様にパソコン等はありませんでした。

1941年12月7日(昭和16年)太平洋戦争が東条内閣の時始まりました。開戦後、直ぐイギリスのプリンスオブウェールズその他が、シンガポール沖で日本の艦載機により撃沈されたとのニュースが、写真入りで新聞に大々的に掲載されていました。よく覚えています。英国の首相のチャーチルは、「戦艦の時代は終わった。航空母艦で軽快に移動する時代になった」と言った話を最近本で読みました。1945年12月7日(昭和16年)もう忘れかけている第二次世界大戦開戦の朝、魚雷2本を積んだ2人乗り5隻の特殊潜航艇による真珠湾攻撃がありました。アメリカの戦艦アリゾナ等を攻撃し撃沈、9人は国のために尽したとのことで軍神として崇められました。2人乗り5隻という事で10人ならわかりますが、軍神9人で1人不足が不思議でし

たが、その後忘れておりました。実は残る1人は、重症を負い海岸に打ち上げられた潜水艦から救助され、この戦争の1人目の捕虜となり、アメリカ本土の収容所に送られました。戦後1946年1月に帰還され、帰還兵は日本の港に降りる時、収容所の服を海軍の制服に着替えて船を下り、徳島の自宅へ帰ったとの事です。酒巻一男さんと言ひ、帰還後トヨタに入社され、トヨタブラジルの社長をなされ、退職後、81歳で亡くなられた事を知りました。日本政府、マスコミは沈黙でした。戦後、多くの雄偉な人々がこの戦争でこの世を去り、非常に惜しい気が致しました。

母は物知りで、若いころ明治維新後の学校で習った事は「勝てば官軍、負ければ賊軍」だから、「負ける戦争はするな」と何時も話しておりました。勉強するなら何時でも応援するよ、と無理やりの勉強はありませんでした。正しい判断だと思います。父は家では何も話しませんでした。それでも、帰宅するとみかん箱を2個離して置き、上に洗濯板を乗せ、その上で父から漢字算術等を習いました。転任するので家具は殆んどありませんでした。

小学校3年生の時、父が札幌中央放送局に転勤のため、札幌円山小学校に転校させられました。沢山いた友達がゼロになりました。本当に悲しい気持ちになりました。1945年(昭和20年)春、父が函館放送局に転勤となり、6ヶ月ほど函館の大森小学校に移りました。また友達はゼロになりました。その後、旧函館中学(現在の函館中部高校の前身)を受験し進学しました。兄は近くで通学していた札幌第二中学(現在の札幌西高)より函館中学へ転校してきました。当時、上級生は絶対の権利がありました。道端で会った時、敬礼しないと後で殴られました。逃げてきて教壇の下に隠れる人もいました。教練という時間に重い木銃を持たされました。運んできて落としたら教練の退職将校から怒られました。敵を討つ訓練です。今では考えられません。

初夏の頃、中学の屋外グラウンドの縁で防空壕掘りをしていた時、快晴の上空を後退翼の大き



な飛行機一機が通過していきました。ボーイングB17だと思います。初めての空襲でした。約30分後に空襲警報のサイレンが鳴りました。その時は爆撃されませんでした。以後、函館港内や高い建物が爆撃されました。私たちは空襲警報が鳴ると、函館山中腹にある防空壕に避難しました。町の中心部の木造の建物は危険との事で、人力で壊されました。敗戦後、多数のグラマンが低空で函館市内を飛行しました。搭乗員が見えました。

札幌では食料事情が悪く、母は留萌海岸等で大量に取れた鯀を箱で買って、料理をして家族に食べさせました。焼いたり、庭で干して身欠き鯀にして家族に与えました。一つぐらい無くなっても分かりませんでした。函館ではホッケ、烏賊などを沢山食べさせられました。母は当時あった町内会を取り仕切り、配給になった食料品などを各家に分配していました。

夏休み、まだ札幌にあった住宅に帰った時、広島に投下された新型爆弾の事を知りました。原子爆弾のことは後で知りました。その後終戦となり、家族全員で父母の命令で天皇陛下の玉音を聞きました。変な片言言葉の継続の様な話でした。

終戦後、新制度に移行。函館中部高校併設中学となりました。中部高校3年の時、学区制になり、無理やり函館西高校に移されました。おそらくGHQの方針です。6ヶ月通いました。現在、私は函館中部高校と函館西高校の二つの高校の卒業になっております。終戦当時、私と兄は長野の母の実家に行かされました。食糧事情が悪かったためです。農家で食べ物がたくさ

んあったため、私たちは太ってお米を背負って帰りました。函館から長野までは3日かかりました。農家が大変良く見えました。79歳で逝った祖母は大変喜んでいました。

札幌医大に進学したあと、父は札幌中放送局に転任となりました。初めて札幌の琴似に自分の家を建てました。卒業後、どうせ国家試験の後に大学に帰るとの事で、旭川厚生病院でインターン制度の研修をしました。インターン終了後、医師国家試験があり、その後、札幌医科大学整形外科講座の医局に入局しました。そこで当時の河邨文一郎教授の指導を受けました。彼は俳人であり、この上ない善人でした。彼の父は東大医学部を卒業後、小樽で開業していました。北海道の一番古い整形外科開業医です。

昭和35年に北海道で、夕張から始まり大流行したポリオの研究、治療のため、昭和37年に札幌整肢学院に行かされました。一週間に6~7人の手術をしました。足を伸ばす機械も作りました。ポリオの仕事で学位も取りました。

昭和39年2月、札幌整肢学院の医療科長の時、当時大赤字の留萌市立病院に整形外科を新設のため、2~3年勤めることを勧められました。昭和39年5月のことです。同年2月に駅前の富山先生が病院をオープンされたその年です。

「良い先生だから仲良く地域医療を出来るよ」と話されました。その3年後、安保の学園紛争が始まり、留萌に永住する事になりました。その後、50年以上当地で地域医療を継続しています。

3. 留萌と家族とロータリーの話など。

河邨文一郎教授と富山唯夫先生の2人にロータリー入会を勧められました。開業の条件というのが「当会の入会」でした。その後、ロータリー活動にはまり、現在に至ります。ガバナー以外は全部したような気がします。

縁があって留萌に来て、昭和42年今の家内と夫婦になりました。その後、4年間で1男2女が生まれ、長男・長女は私と同業、次女は同業と結婚し、長女と次女は互いに1男1女を設け、現在教育中です。結局、孫4人と言う事になります。

子供達にあと3年で死ぬと言われて暫く経ちます。最近言わなくなりました。困みに父は59歳で脳卒中、76歳で死亡。母は95歳まで生きました。ひょっとしたら母に似たのかも。

私は、戦争、敗戦、インフレ、デフレ、阪神や東北の大震災の中、よく生きて来たと思います。災害は忘れた頃にやって来る。そろそろ関東地方に大震災が起こるかも…。

終わります。



No. 2595

第32回 2月26日

●本日 移動例会「創立記念夜間例会」

 **会長報告** .....

1. 国際ロータリー第2670地区の高松南RCのスマウド・ソバニ会長からメイクアップの参加呼びかけを頂きました。
2. 国際ロータリー第2510地区安孫子建夫ガバナーより、2016～2017年度のガバナーに札幌南RCの武部實会員に決定したとの連絡がありました。皆様にご報告いたします。



 **幹事報告** .....

- ・砂川RCより3月例会案内を受領しました。
- ・芦別RCより会報No.2575～2578号及び3月例会プログラムを受領しました。



 **ニコニコBOX** .....

- ・喜寿のお祝いありがとうございます。  
齋藤会員
- ・新年あけましておめでとうございます。  
串橋会員
- ・引き続きお世話になります。 長谷川会員
- ・ビンゴ当たりました。  
行徳、燕、関野、大嶋、遠藤会員
- ・ビンゴ司会させていただきました。鈴木会員



前 回	589,600円
今 回	32,000円
累 計	621,600円

 **プログラム** .....

「53周年創立夜間例会」

《慶祝》

古希 3月18日 原田 功会員  
喜寿 4月26日 齋藤 清蔵会員

《新会員》

梁川 信会員／松村 泰年会員



## ロータリー文庫は ロータリー情報の「宝の蔵」

ロータリー文庫運営委員会 委員長 戸田 一誠(東京練馬西RC)



ここ数年の『ロータリーの友』7月号「文庫通信」のページを繰ってみると、掲載すべき内容はほぼ定番化しており、足すものも引くものもありません。よって、それらを引き写して、皆さんにロータリー文庫の使命をお伝えします。

### 内外の資料の収集と整理保存

ロータリー文庫の前身は、『ロータリー日本五十年史』編纂の折に収集された資料保存のため、1970年、「ロータリー資料室」として設置されたものです。73年、所蔵資料の有効活用を図るため、「ロータリー文庫」と改称されましたが、いまだ道半ばにあり、有効活用にはいささか届きかねているばかりか、「埋蔵金」などと汚名を着せられたりもしています。しかし、このような扱い方は天に唾するようなもので、利用者であるロータリアン自身が目の宝の蔵に気づかない、という不明の証左ではありませんまいか。

紙の資料は日を追って劣化が進み、このままでは宝の蔵が遺跡になりかねません。資料のデータベース化が急務です。現在、電子化作業を進めていますが、人員・予算との兼ね合いもあり、一気に作業を進めることは困難な状況にあります。皆さんのご関係で、特に電子化に関してご協力いただける事業所があれば、ぜひお知らせください。99年、国際ロータリー(RI)は、「Japan Rotary Clubs Library」の名称を公式認証しました。クラブ会長・幹事・研修委員長の皆さん、ぜひご活用ください。当委員会は、活用の具体化策として、各クラブに

よる「文庫訪問ツアー」の実施を提案します。「宝の蔵」をお見せします

ロータリー文庫が収蔵している文献資料は2万点を超え、ホームページのアクセス・資料請求に関しては、毎月1万件余を数えています。ロータリー文庫とロータリアンとの接点は、『ガバナー月信』に掲載される「文庫通信」です。クラブ研修委員長の皆さんは特に注意を払ってチェックしてください。また、ロータリー文庫ではコピーサービスを提供しています。さらに、ビデオによる映像資料やホームページの充実にも注力しています。皆さんのご利用を心からお待ちしております。

### 次代に「宝の蔵」を相続する

ロータリー文庫は、内外の資料を収集整理し次の時代へ伝えていく、という大きな使命を担っています。2020年、ロータリー日本創立100年という記念すべき時を迎えます。既に、100年史編纂準備委員会が組織され、『ロータリー日本100年史』刊行に向けて、準備活動がスタートしました。この活動の基礎資料には、ロータリー文庫が収蔵している膨大な資料を抜きにするわけにはいきません。「宝の蔵」継承者として、相続人として、ぜひロータリー文庫をお訪ねください。そして、ロータリー文庫の運営に理解を深めてください。ロータリー文庫が「宝の蔵」として輝くか否かは、ひとえに皆さんのセンスにかかっています。

第2580地区(東京・神輿)2003-04年度ガバナー

### ホームページをご活用ください

ロータリー文庫は東京の芝公園にあります。都心とは思えないような緑豊かな所で、窓の外の緑を楽しみながら、ゆったりとロータリーの文献をお読みいただくことができます。ここには、ロータリーに関する、戦前からの貴重な文献がたくさん保存されています。とはいえ、日本全国のロータリアンの皆さまにロータリー文庫にお越しいただくのは、なかなか難しいこととも思います。ロータリー文庫ではホームページを開発していますが、皆さまにご活用いただけるよう利用方法についてのCDを制作しました。さらに、ロータリー文庫に保存している文献も、順次、ホームページからダウンロードできるよう作業を進めています。ご活用ください。  
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>



〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15  
黒龍芝公園ビル3階  
電話 03-3433-6456  
ファクス 03-3459-7506